

単元 PDCA シート

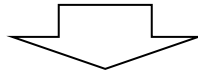
題材名【指示語(こそあど言葉)を聞き分けよう】

研究の視点 何ができるようになるか

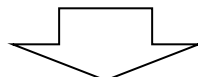
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
高等部における 育てたい力	各教科等の知識・技能 国語	自分の思いや考えを表現し、 分かりやすく伝える力	目標を意識して自分を伸ばそうと する力
		他者の思いや考えを聞き、適切に 対応する力	自分の責任を果たそうとする力
		集団の中で考えを修正したり深め たりする力	集団の中で状況を理解して取り組 もうとする力

関連する 個別の指導計画 の目標	B女	H男	J男
	・生活に必要な語彙を増やす ことができる。	・場面に応じた適切なコ ミュニケーションをとる ことができる。	・就労に必要な専門的な用語 を理解することができる。

題材の目標 (各授業の中心的課題)	こそあど言葉の使い方の決まりを理解し、指示語を聞き分けて指し示すものを考え、適切に行動することができる。
----------------------	--



	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性 主体的に学習に取り組む態度
「育成を目指す資 質能力の三つの 柱」の観点で分析	・こそあど言葉の使い方の 決まりを理解することが できる。 ・話の中で使用されるこそ あど言葉を聞き分けるこ とができる。	・話し手と聞き手の位置関 係から、こそあど言葉が 指し示すものの位置を判 断することができる。	・指導者や職場の人の話す内 容を正確に聞く力を高め るために、意欲的に活動に 取り組むことができる。





題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイで話されるこそあど言葉を聞き分けて、指し示されたものを適切な位置にあるかごの中から選ぶことができる。(知・技) ・ロールプレイを視聴したときに、せりふの中のこそあど言葉を聞き分けて指し示すものがある位置を正しく判断し、他の生徒に伝えることができる。(思・判・表) ・他の生徒のせりふやナレーションを聞きもらさないように、積極的にロールプレイに取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度) 		
個別の評価規準 (個の目標)	B女	H男	J男
	・ロールプレイの中で「あ」 の指示語が入ったせりふ を聞き分けて、話し手の 視線を手掛かりに指し示 された道具を適切な位置 から選ぶことができる。 (知・技)	・ナレーションで自分の名 前が呼ばれたときに、話 の内容を聞き漏らさない ようにして、シナリオ 通りに演技することが できる。 (主体的に学習に取り組む態度)	・視聴者チェック発表のど きに、チェックスタンド を正しい位置に置いて分 かりやすく他の生徒に発 表することができる。 (思・判・表)

◎：一人で行える ○：手がかりを参考にして △：指導者の促しで ×：できない

研究の視点 どのように学ぶか（主体的な学び・対話的な学び・深い学び）

学習活動	活動機会・支援環境・授業展開	
<p>2 「こそあどジェスチャーゲーム」をする</p>	<p>・一人ずつ交代で出題するように設定することで、話す主体が変わったときにも話し手と聞き手の位置関係から瞬時に指し示すものがある方向を判断できるようにする。</p> <div data-bbox="411 495 1046 763" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ジェスチャーゲームに慣れるまでは指導者がこそあど言葉をランダムに言うようにしていたが、話す相手が変わっていく中でも指し示すものの位置を素早く判断できるようにするために生徒同士で順番に問題を出し合うようにした。</p> </div>	<div data-bbox="1075 304 1449 562"> <p>「こそあど」ジェスチャーゲームをしよう</p> </div> <p>(こそあどジェスチャーゲームのルール)</p>
<p>3 「こそあどドラマ」をする (1) 3人ずつのグループに分かれてロールプレイに取り組む</p>	<p>・ロールプレイを演じる生徒には、事前に自分が言うせりふが書かれたせりふカードを渡して話す内容と相手を伝えておくことで、話す相手と指し示すものの位置を確認できるようにする。</p> <p>・生徒の実態に応じて、2つ以上のこそあど言葉が入ったせりふを聞き分けて行動したり、話し手、聞き手以外の第3者を登場させたりするなど、せりふの内容を変えておくようにする。</p> <div data-bbox="424 1106 1043 1375" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>当初はどの生徒もロールプレイのせりふの中で聞く指示語は1つとしていたが、活動に取り組むなかで各生徒の課題が明確になってきたため、それぞれの生徒の課題に応じたせりふを用意することとした。</p> </div> <p>・ロールプレイを視聴するグループの生徒には、せりふの中のこそあど言葉が指し示すものがどこにあるかを「視聴者チェックシート」に記入して確認する役割を任せることで、自分が話し手でも聞き手でもない場合でも、こそあど言葉を聞き分けて指し示すものの位置を適切に判断できるようにする。</p> <div data-bbox="424 1697 1043 1966" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>聞き手としてこそあど言葉が指し示すものの位置を判断するだけではなく、話し手でも聞き手でもない立場で判断する活動を設定することで、指示語が指し示すものを判断する機会を増やし、理解を深められるようにした。</p> </div>	<div data-bbox="1088 864 1449 1137"> </div> <p>〈せりふカード〉</p> <div data-bbox="1088 1473 1449 1809"> </div> <p>〈視聴者チェックシート〉</p>

<p>(2) 視聴者チェックの発表をする</p>	<p>・発表者はロールプレイが行われた場所で、話し手と聞き手の位置や指し示されたものがある位置に視聴者チェック発表用スタンドを置きながら発表することで、他の生徒に分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>当初は、発表者は前に出て、テレビ画面に映したチェックシートを見せながら発表していたが、発表を聞いている生徒が話し手や聞き手の位置関係を確認しづらい様子だったので、実際にドラマをした場所で視聴者チェック発表用スタンドを置きながら発表するようにした。</p>	  <p>(視聴者チェック発表用スタンド)</p>
--------------------------	---	---

研究の視点 何を学ぶか

<p>学習指導要領での位置づけ</p>	<p>国語科 中2段階〔知識及び技能〕 ア(オ) 修飾と非修飾の関係、指示する語句の役割について理解すること 国語科 高1段階〔聞くこと・話すこと〕 ア 社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことを中心に注意して聞き、話の内容を捉えることができる。</p>			
<p>年間指導計画での位置づけ</p>	<p>国語科 A1グループ 言葉の理解 社会で役立つ言葉の学習 指示理解 複数の指示を聞いて行動する</p>			
<p>学習指導計画</p>	<p>第1次 こそあど言葉の決まりを知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間 第2次 「こそあどドラマ」をしよう(物事・場所編)・・・・・・・・・・3時間(2/3時間) 第3次 「こそあどドラマ」をしよう(方向・様子編)・・・・・・・・・・3時間</p>			
<p>討議会での意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A1グループの生徒には今後難易度を上げて「これ」「それ」など指示語のみで指し示すものが何であるかを考える活動を取り入れたらよい。 ・指し示すものが分からなかったときの質問や確認の仕方を学ぶ活動が今回の授業ではなかったため、単元終了までに取り入れるとよい。 ・今回は家庭科室で授業を行ったが、体育館などより広い場所で指し示すものの位置関係がより離れている状態で活動するとよい。 			
<p>単元についての評価</p>	<p>指導内容</p>	<p>A1グループの生徒にはやや簡単であった</p>	<p>指導形態</p>	<p>適切</p>
<p>単元についての改善点</p>	<p>実施時期</p>	<p>適切</p>	<p>時数</p>	<p>適切</p>
<p>単元についての改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A2グループやBグループにおいても指示語の学習を取り入れる。その際、グループの実態に合わせて、指差しなど視覚的情報と共に指示語を聞き分けるなど活動の内容を工夫する。 ・指示語を聞いて指し示すものが分からなかったときの対応の仕方の活動も合わせて行う。その際には、より具体的な質問方法を考えたり、タブレット端末などのカメラで指し示すものを写して確認したりするなど、様々な確認、質問の方法を学習できるようにする。 ・活動内容に合わせて、体育館や農園などの広い場所を使うことができるようにする。 ・単元学習後には授業以外の場面でも意図的に指導者が指示語を使う場面を増やし、学習内容の定着を図るようにする。 			